知恵の樹

No. 146 2010. 1. 20

町田の図書館活動をすすめる会

事務局：町田市森野 3-1-12 増山方

〒194-0022 FAX 042-722-1243

今年は 国民読書年

子どもたちの心を開かせる図書館

～公共図書館と学校図書館の連携（学社連携）を！～

全国学校図書館協議会参与　平 塚 禅 定

「アメリカ社会に役立つ図書館の十二箇条」（竹内悊編訳『図書館のめざすもの』日本図書館協会）の第六番目の項目に、「図書館は子どもたちの心を開きます」があり、次のようなことを教えてくれます。

「子どもたちを図書館に連れて行くということは、この子たちをいつもの場所からふだんとは変わった所へ旅をさせることと同じです。そこでは就学前の子どもたちへのお話の時間から、高校生のための職業選択に至るまでのサービスがあり、児童図書館員はそれぞれに異なった対応をします。図書館に援助を求めてくる一人ひとりの子どもはそれぞれに独自の成長を示しますし、そこから生まれる要求もまた一人ひとり独特であることを、図書館員がよく考えているからなのです」。

これに対して日本では、平成 15 年度から学校には司書教諭（兼任）の配置が義務付けられ、教師の授業支援や子どもたちへの資料活用法、楽しい一斉読書などの提供がなされるようになりました。公共図書館では、図書館サービスの中に読み聞かせを入れたり、学校へ出張授業をして、図書館の利用案内、授業発展の楽しい読みもの紹介など有効な刺激を与えています。両者とも、まだまだ不慣れなサービスで、両者が協働作業によって補完してこそ、子どもたちの読みたい・知りたい・学びたい・楽しみたいという夢をかなえてやれるのです。表題にした図書館間の連携が車の両輪のように欠くことができないのです。

昨今読書離れがいわれていますが、21 年 6 月の全国 SLA(全国学校図書館協議会)の統計によれば、5 月中の読書平均は小学校 8.6 冊、中学校 3.7 冊、高校 1.7 冊と、部活動・受験勉強などで多忙な中高生等も、不読者が若干減少するような傾向にあります。これは、一斉読書のように在校時間帯に読書時間を確保するなどが、問題解決につながっていると思われます。

また学校外では一市民となるこれらの人びとに対して、公共図書館は、児童コーナー、YA コーナーなどの区分や、ブックトーク、一日図書館員制度など、成長発達に応じたサービス方法を計画実践しています。これらは特別なサービスではなく図書館法第 3 条の中にある「他の図書館…学校の図書館、図書室との緊密に連絡協力して…」という通常サービスの一環として支援活動をしていると理解できるのです。

図書館行政の根幹にあることを、時代の動きとともにその都度新しいｻｰﾋﾞｽ活動に入らなければならないという要求がでて、先進地域の資料配送ｼｽﾃﾑ化などが実施されているのです。

このような時代の要請をうけて、超党派議員連盟が提案、衆参両院全員一致で決定し今年を国民読書年と決めたのには、―子どもの読書活動の推進に関する法律、文字・活字文化振

興法の実現化の年ともいえる―重要な目的があったのです。

しかし、先般の政府の事業仕分けでは「子どもの読書活動の推進事業」概算要求の２億1200万円が4900 万円に削られ、国会決議の「国民読書年」を忘れているような実態に、国民は、厳しい批判の投書を寄せています。

せめて図書館行政先進の町田では、公共図書館に市内学校で使用している教科書を備え、学校連絡窓口担当者が市教委の指導を受け教科関連のレファレンスを充実させる、学校図書館には『市民の図書館』(日本図書館協会刊)、『新版図書館の発見』（NHKﾌﾞｯｸｽ)、を備え、司書教諭、公共図書館学校窓口担当との合同研修、教科活動に不足資料の支援のシステム化を計画してほしいと思います。

子どもたちには、「本は大切」小 90%・中 88.1%・高 87.5%、「読書は好き(どちらかも含めて)」小 81.7%・中 76.1%・高 72%といった実態があるのです。

学校図書館は「学び方を学ぶ場」、公共図書館は「生活を支える刺激の場」としての役割を果たす夢もあるのです。学社で資料を笑顔で手わたし、ありがとうで返却し、大人の責務で国民読書年を浸透させられれば、町田でも「図書館が子どもたちの心を開かせる」ことが実現するでしょう。その基盤と歴史がある町と確信しています。

（藤沢市在住　ひらつか　ぜんじょう）

藤沢図書館参観記

市民の図書館を考える

山口　洋

はじめに

他の地域の図書館を見学することは、自分の普段利用する図書館をより良くするために大切である。何が良いのか？何が足りないのか？他の事例と比較してこそ、見えてくる課題やアイデアもある。そのような思いから、昨年 12 月 20 日に藤沢市総合市民図書館と藤沢市立辻堂図書館を見学した。両館を見学したのは二度目であったが新しい発見もあり、今回はその点を中心に報告したい。因みに人口は町田市 42 万人、藤沢市 40 万人、面積は町田市71.63平方キロメートル、藤沢市69.51平方キロメートルであり、比較するにも適していると思われる。

1.　公共サービス中の市民満足度が1位

藤沢市では公共サービスにおける市民満足度調査をしており、昨年度は図書館が１位になったという。その理由を探ってみた。まず市民満足度の高さには、市民の身近にある図書館であるという点が大きい。藤沢市の図書館は、中央館である「総合市民図書館」(湘南台)と辻堂・南の分館、保存書庫機能も持つ大庭図書館の4館である。この点では、町田市の方が館数6館で多い。しかし藤沢市の場合は、中央館、分館の他に市民図書室(市民センターや公民館内に設置)が11館あり、ここが市民の最寄りの図書館として機能している。市民図書室は床面積が 182 ㎡~67 ㎡と町田市内最小の鶴川図書館より狭く、常備できる蔵書も限られオンライン化もされていないが、図書館の職員(嘱託職員)が常駐する。開室時間は火曜日から日曜日の午前 10 時から午後 5 時までである。ここのカウンターが市内全図書館網と繋がっており、貸出、返却、レファレンスなどの図書館サービスを行っているのである。HP には各市民図書室の新着書が紹介され、お話会も行われる。1中学校区に1館の図書館が理想であるが、それは歩いてゆける距離に図書館があるべきであるという考え方に基づく。ふらっと立ち寄れる、買い物帰りに立ち寄る、生活の一部としての図書館の存在が大切なのである。この小さいながら市民の身近な図書室が市民満足度の高さに結びついているのである。

町田市でも返却ボックスを増やすなどの努力が行われているが細長い市域を図書館網で覆うには、ブックモビルのみならず、この様な取り組みも参考になるだろう。ポイントは、必ず図書館職員が常駐し、利用者サービスを提供するという点である。

市民に利用される図書館とはどういうものか？市民に足を運んでもらうにはどうしたらよいのか？1970年に発表された『市民の図書館』は図書館サービスの重要課題として①貸出②児童サービス③全域サービスの3点を掲げたが、特に③全域サービス、すなわち全ての市民の身近（歩いていける距離）に図書館を設置するという点は、指摘があって以来40年経っても実現した自治体はない。公共サービスである以上、全ての市民＝主権者がそのサービスを享受できるようにしなければならない。藤沢市の場合は、全域サービスに限りなく近づいているといえるだろう。その結果が高い貸出率と市民満足度1位という結果を生み出したのである。昨年7月に行われた藤沢市の事業仕分けでも図書館サービスは「現状維持」の評価を得たという。これもまた、図書館サービスは公共サービスとして投資すれば、多くの市民の満足と評価が得られることを示しているといえよう。

2. 図書館員のプロ意識

この様な図書館サービスにおいては、資料の充実や設備以上に携わる図書館員の質が問題となる。図書館サービスは人的サービスと言われる。前川恒雄氏は新版『図書館の発見』の中で図書館員に求められる資質して、①図書館は何をするところかを知っている。②人間に対して謙虚であること。③資料である図書に対しても謙虚であること。④専門的技量を有すること。と、あげている。いずれの項目も、司書個人の心がけが大切であることは言うまでもないが、その様な専門性を維持するためには、組織として体系的な研修制度を設け、人材を育成していくことが欠かせない。

藤沢市の場合、専任職員の他に、非正規雇用の専門職業務員（図書館業務に関しては専任職員と全く同じ）、一般業務員、アルバイトの職員が図書館サービスに携わっている。この点では他の自治体直営図書館と変わらないが、非正規雇用職員に対しても、十分な研修の機会を館内で設け、人材育成を行っている。その結果、アルバイト職員から専門職業務員になり、プロの図書館員としての経歴を積んでいる方もある。このように利用者を知り、図書館を知る職員が、正規非正規に関係なく研修を受ける機会を確保し、人材を育成しているからこそより良いサービスが提供でき、結果として市民の満足度を高め、図書館としての存在意義を示すことになるのではないだろうか。

町田市の場合、嘱託職員がそのうち図書館サービスの中核を担うようになるだろう。そのためにも、嘱託職員、アルバイト職員に対する研修の充実、人材育成は不可欠であろう。

リレー・エッセー

読書のきっかけ

町田市役所職員　田村充広

おそらくこの機関紙を目にする方々は読書好きの人が多いかと思いますが、私には中学校までは読書をするという習慣はありませんでした。

そんな私にとって本を読むというきっかけを与えてくれたのが、高校生の時の課題でした。その課題というのは、3年間で 100 冊の本を読むというものです。とは言っても、よくある学校の課題のように毎回読書感想文を書く必要はありません。定期試験の際に内容は問われますが、読んでさえいれば対応できる問題でした。普段の読書と同じように気楽に読めばよかったのです。

もう1点、読書の習慣を身に付かせる工夫がされていました。それは、おおよそ学校の教材としては考えられないような幅広いジャンルの本が選ばれていた事です。純文学だけに限らず、推理小説であったり、店頭に並んでいるようなベストセラーであったりといわゆる「高校生にとってふさわしい教材」から離れて選択されていたのです。

最初は課題の本だけ、次は同じ作家の別の小説家の別の本、さらには同時代の別の作家というようにいつのまにか習慣的に読書をするようになっていました。100 冊読むというのは読書をする習慣のある人にとってはたいした量ではないと思います。しかし、私にとって間違いなく読書のきっかけを与えてくれたこの体験に感謝したいと思います。　（たむら　みつひろ）

最後に

無料で誰にでも門戸を開き、様々な読書要求、情報要求に応えてくれる市民の図書館は、ほんの半世紀前に市民の要求から実現した。今そのありがたさを私たちは享受している。このサービスが今後ともより進展し、次の世代にまで恩恵を及ぼすために、何をすべきか？市民として真剣に考えなければならない。

最後に日曜日午後のお忙しい中、丁寧にご案内いただいた総合市民図書館の内藤さん、辻堂図書館の松浦さん、野島さん（お二人とも専門業務員）に心からお礼申し上げます。

（やまぐち　ひろし　会員）

講演会『**ブックトークを楽しく**』 **―報 告―**　　主催：町田の学校図書館を考える会

講師：丸岡和代さん、谷釜房子さん（町田ブックトークの会会員）
12 月6日(日)14:00～16:00　まちだ中央公民館　第 3･4 学習室にて（参加者 12 名）

① **ブックトークについて･･･**ブックトークとは、あるテーマに沿って本を紹介すること。町田ブックトークの会は毎月第 2 木曜日の 13:30～16:00 に、さるびあ図書館で勉強会を開いている。ブックトークをするには、日頃からまんべんなく自然や科学の分野も読んでいなくてはならない。例会は毎回2人がブックトークの発表をし、みんなが意見を言い合って、よりよいものに作り上げていっている。本の組み合わせの中に語りを一つ入れるようにしている。

② **丸岡さんのブックトーク･･･** 『2009 年はウシのトシですね』（小学校中高学年向き）

谷釜さんが『はなのすきなうし』(ﾏﾝﾛｰ･ﾘｰﾌ/岩崎書店）を語ったあと、丸岡さんによるブックトークがはじまる。「はなのすきなうし」のフェルジナンドは牡牛、ここに牝牛のジャスミンがいます、と『めうしのジャスミン』（ロジャー・デュボアザン/童話館）を開きあらすじを話し、本当の牛ではなく牛にまつわる物として、『きみの家にも牛がいる』（小森香折作／中川洋典絵/解放出版社）を紹介。そして人間の大人の歯は 32 本、さて牛の歯は何本でしょうとｸｲｽﾞを出す。このように次々とｺﾒﾝﾄを挟みながら楽しく牛の本を紹介していく。『お肉がとどくまで』（吉田かつよ/岩崎書店）、『でてこい　ミルク！』(J. A. エリクスン/うちだりさこ訳/福音館書店）、『チーズの絵本』（かわぐちおさむ/農文協）、『くいしんぼうのはなこさん』（いしいももこ/福音館書店）。

「2009 年は丑年でした。来年はこれですね」と表紙にトラの絵が描かれている『10 人のきこり』(A. ラマチャンドラ/田島伸二訳/講談社）を見せて、終了。

③ **谷釜さんのブックトーク･･･**『カレーライス大好き！』（小学校中高学年向き）

ご飯の上にカレーがかかっているライスカレーとカレーライスの違いから、『キツネはかせのへんなカレー』（小松正作/佐々木マキ絵/秋書房）、『カレーライスはこわいぞ』（角野栄子作/佐々木洋子絵/ポプラ社）、『大好き　食べ物情報図鑑②カレー』（浜田和子文/高村忠範絵/汐文社）、『カレーライスがやってきた』（森枝卓士文・写真/福音館）を紹介し、『もしも日本人がみんな米つぶだったら』（山口タオ文／津川シンスケ絵/福音館）の本を見せながら、「1 本の苗からお米は何粒とれるでしょう？」「お茶碗によそったご飯は米粒が何粒あるでしょう？」とカレーと相性のいいお米についてのクイズが盛り込まれる。他に『ごはんのはなし　第 1 巻』（農文協）や『こまったさんのカレーライス』（寺村輝夫作/岡本颯子絵/あかね書房）も紹介。高学年向きには、香辛料のターメリックの話や稲の生育の話などを詳しく紹介してもいいのでは、とのこと。

④ **質疑応答では**、テーマの決め方、本の順番の組み合わせ、本の見せ方のコツなどについてもお話くださった。

最後に学校図書館を考える会の会員による、新刊と図書館の飾りのヒント（パタパタカード・クリスマスカード・ミニチュアツリーなど）の紹介をして、今年度 1 回目の講座を終えた。

（紙面の都合で市川博子さんの会員向け報告文から抜粋/編）

「大学図書館を使ってみよう！」に参加して

石 井 一 郎

去る12月19日（土）午後2時～午後4時30分迄、和光大学附属梅根記念図書・情報館にて「大学図書館を使ってみよう！」の講座が町田市立図書館と和光大学との共催で開催された。この講座は、町田市立図書館と大学図書館との相互利用が始まってから開かれており今年(2009 年)で4回目だとか、参加者は 15 名程であった。講座内容は、館内見学に1時間、ネット検索に一時間半が割り当てられた。

館内見学は、2班に分かれて職員の方の案内で行われた。

私の参加したグループは、最初に3階のラウンジ前に行き、普段書庫にある家永教科書裁判資料の説明を聞き、そこで閲覧をさせてもらった。和光大学図書館は傾斜地に建てられているので、この3階に入り口があり、メインカウンターがある。家永裁判資料を見たあと、同じフロアにあるラウンジ・イートインスペース・Let’s Read Project コーナー・教職員著作コーナー・情報検索コーナー・参考図書書架・本を読もう！コーナーを見学した。

Let’s Read Project コーナーは、学生たちが本を選び本棚をつくるという企画でプロジェクトメンバーによって選書された本が並べられていた。

2階に下り、歴史・地理と社会科学の書架を見学したあと1階に案内された。1階では文庫本・芸術・MoMA展覧会カタログコーナー・まんが資料コーナー（和光大学の授業に使われたまんが）・文学や参考図書（電動書庫）を見学、そして地下１階へ。

地下1階で、梅根文庫・朝鮮資料・新聞縮刷版や製本雑誌（電動書庫）・紀要（電動書庫）を見学し、エレベーターで4階に上がり、AV資料・新着雑誌等を見て館内見学を終えた。

休憩のあと、教室に移動してネット検索の講義が行われた。最初に和光大学図書・情報館のホームページの説明があり、蔵書検索に入った。講師の方がまず町田関連図書の蔵書検索を行ったあとで、配布資料の例題①「村上春樹の『海辺のカフカ』の文庫本の上巻はあるか？」、②「保育関係の本で汐見稔幸さんが書いた本を読みたい」を演習問題としてやった。

『晴れた日には図書館へいこう』

（緑川聖司・作/宮嶋康子・絵/小峰書店）

丸 岡 和 代

何の気なしに本の背表紙を見て歩くのはわたしの楽しみの一つなのだが、その日もぼぉっとみていたら、ぴょんと目に飛び込んできたのがこの本だった。

一生の間に読める本は、そう沢山ないから出来るだけいい条件の時にどっさり読みたいというのが、この本の主人公の言い分。

6 年生の茅野しおりは雨の日だけじゃ、とてもよみきれない。だから声を大にして言う、「晴れた日は、図書館へいこう！」。

60 年前に借りた本を図書館にかえすには罰金がいるのではないかと心配する人が登場したり、「わたしの本だょ」と抱きかかえて離さない 3 歳の女の子のわけあり事情、返却ポストのいたずらの実態、男子が絵本を借りにくいわけ、などさまざまな図書館にまつわる話題が取り上げられ、昨今の片親家庭の模様なども織り込まれ、時に胸にじんとくる。

『言葉はわたしたちの、剣であり、盾であり、食事であり、恋人である。
言葉は時に、剣を防ぎ、盾を壊し、食事を隠し、恋人を奪う。
あなたが言葉の海に漕ぎ出す時には、言葉は船にもなるだろう。
あなたが言葉の空に飛び出す時には、言葉は羽にもなるだろう。
そして、いつかあなたが新しい世界に旅立つなら、
言葉の川を言葉の橋で渡り、
言葉でつくられた扉を、言葉の鍵で開けるだろう』

主人公しおりの父（作家）のデビュー作の一節としてこの詩が登場する。12 年目にはじめて目にする父親。

抑えた描写が快い感動を与えてくれる。（会 員）

引き続き、インターネットを使った検索が行われた。ホームページからインターネット情報源（情報入手に役立つリンク集）をクリックして検索した。講師の方の指示に従い、「学術情報を探す」からサイニィと「新聞・ニュースを探す」から神戸大学デジタル版新聞記事文庫を見た。最後に、便利なインターネット情報源の紹介があった。ネット検索の講義はゆっくり時間をかけてやってもらえてよかったが、時間が足りなくなり少々残念。

学生に図書館利用を促す大学図書館の努力を感じることが出来た。和光大学図書館にまで行くのは交通面からも難しいが、ネット検索は利用できそう。和光大学附属梅根記念図書・情報館が少し身近になった。（会員）

図書館協議会の報告

2009 年 11 月 24 日、15 時～17 時まで第 13 期第 3 回図書館協議会が開かれました。まず館長報告、その後、委員からの質疑応答、協議会として議論が行われました。内容を要約して報告します。詳細な議事録は、後ほど町田市図書館 HP にて公開されますのでご覧ください。

◎館長報告

1. 第 8 回教育委員会（11 月 13 日開催）

文学館祭りの報告。「図書館だより」第 96 号 BM 特集の件（教育委員からは BM 継続を望む声あり。貸出状況では堺の BM が増えている他、小山ヶ丘では利用が激増）。

2. 第二次町田市子ども読書推進計画の進捗状況報告

懇談会が行われ、協議会からは水越委員、石井委員が参加。継続審議中。

3. 市民センターでの返却資料受取りサービスの件

忠生、小山市民センターは、2010 年 1 月 18 日から実施予定。

2009 年 12 月より開設された南町田駅前連絡所（つくし野、鶴間地区対象）も検討中。

これは他市でも事例があり、市民の要望もあった。今回の対象地域は図書館サービス圏外の地域である。この件に対して委員からは、市民センターの活用は市民の図書館利用の利便性を考えると一歩前進であるが、本来はある程度の規模の地域館があることが最も大切であり、その本質は忘れないようにしたいとの意見あり。

4. 忠生の新図書館計画の件

忠生地区は図書館サービス圏外にあったが、市民センターの老朽化、立て替えに際して新図書館を設置することに(中期経営プランにあり)。2009 年 12 月に庁内で検討開始、2010 年 1 月には地域を含めた検討へ。

5. 図書館システム更新の件

現在の図書館システムが 6 年目を迎え、ハードウェアーの更新を行う予定（2010 年 2 月 22 日～26 日）。この間は休館。

6. 都立図書館における多摩地区地域資料の件

都立多摩図書館のマガジンバンク化に伴い、同館で収蔵していた多摩地区を始めとする東京に関する地域資料について都立中央館との重複本（都立は蔵書を重複させないとの原則）を再活用（すなわち市区町村立図書館へ移管し、不要なものは廃棄する）という一方的な通知あり（2009 年 10 月 9 日付け通知）。これに対し東京都町村立図書館長協議会は一括保存を書面にて要望（2009 年 11 月 11 日付け）。その経緯と現状を報告。実際には、既に一部資料が 23 区公立図書館に移管され始まっており、委員からは都立図書館の姿勢に疑問が呈された。

◎協議会の議論

1. 今期の図書館協議会のあり方について

館長より「図書館の運営理念と目標」について協議会に諮問が出されたので、これを今期の検討課題とし、各自治体の事例を収集検討しながら、町田市の図書館としてのあり方を提案することになった。

2. 図書館見学（2010 年 1 月 27 日に町田市内の図書館視察を実施予定）

市内の各図書館の状況を視察して、現状把握し、問題点などを考察する。委員からは、さらに他自治体の先進事例についても適宜視察し、「図書館の運営理念と目標」作成に資するようにしたとの意見あり。

（文責：やまぐち　ひろし：会員、図書館協議会委員）

「クローバー子供図書館」を訪ねて

昨年 12 月はじめ、『図書館森時代』(日本地域社会研究所)の女性共著者4名で、福島県郡山市にある「クローバー子供図書館」と、宮城県「東松島市図書館」を見学した。そのうちの「クローバー子供図書館」をご紹介したい。

同行の友人の車で図書館前にたどり着いた時、まるでお伽の国に来たのではと思えるドーム型の木造建築に心がときめいた。中に入ると床も壁面も天井も木で出来ており、木のにおいがプ～ンと漂っている。まるで森の中の小屋にいるような感覚で、スリッパに履き替えて案内してもらう。1/3 が吹き抜けで、階段の先は 2 階の閲覧室がありそこからお話室①への扉がつづいている。毎週金曜日の 15:00 からは、職員による読み聞かせが行われているとか。この日は、閲覧室とお話室で子ども達がクリスマスのリース作りをしていた。

①

②

経営者は、精神病院や精神障害者グループホーム・在宅介護支援事業所などを運営している「(財)金森和心会」で、図書館は1952年にオープンし、2007年5月に新築竣工されたもの。館内には、サンタさんやツリーが、壁には患者さんが作ったという素敵なタペストリーが何枚も飾られていて、クリスマスが近いことを知らせてくれる。

社会復帰の第一歩になればと開館されたそうだが、子どもだけでなく患者さんと一般の人も来られるとか。入会登録をすれば、市内外に限らず図書の貸出は無料で、一人 5 冊まで 2 週間借りることが出来る。開館日は火、水、木、金、第1・3・5 土、13:00～18:00。約 22,000 冊の蔵書を有し、内成人用が 400 冊余。児童の登録は 300 名程で、近くの幼稚園に月2回貸し出しに行く。団体貸出(100 冊)もしている。地域に根ざした図書館ということで、成人のための蔵書コーナー②もあり、雑誌も 28 タイトル置いてある。

この図書館の主旨は「乳幼児から良い本と出会い、読書を通じて良い親子関係を築き子供たちの健全な心の育成をはかるとともに、地域の方々の精神保健の充実のために貢献することを目的」としており、「健やかな子供の心を育てる図書館、こころとからだの病気を理解するための図書館、高齢者と子供の関わりの場としての図書館」の3つを基本コンセプトとして運営されている。授乳室やｵﾑﾂの取替え室、ﾄｲﾚなど、弱者に対しても優しいｽﾍﾟｰｽがあり、暖かい。しかし、運営を続けていくための資金繰りには悩まれているようだ。 (増山)

ひろば

＜12 月例会報告＞ 16日（水）
16:30～会報 145号印刷
18:00～20:20 例会
於・中央図書館中集会室

出席者：石井、伊藤、片岡、斎川、
鈴木、手嶋、増山、丸岡、
守谷、山口、吉岡、

2010年度 第 11回 **文学館（主催）で楽しむ**
おとなのためのおはなし会
2月18日（木）10:30～11:30
町田市民文学館 2F大会議室

プログラム
＊町田ゆかりの作家「今井邦子」 前田久美子
＊「尻尾の釣」（日本の昔話） 梅谷信子
＊「御嶽堂のつり鐘」（町田の民話） 佐々木令子
＊「雪渡り」（宮沢賢治作） 税所紀子
＜語り：まちだ語り手の会＞*直接会場へ！*

○多摩地域公立図書館大会(前号でお知らせ)・・・〈2/18（木）第6分科会：「子どもと本の世界をむすぶ人たち―図書館員・ボランティアの役割を考える』講演：後藤 暢氏（元専修大学教授）、報告：町田市立中央図書館、立川市中央図書館、東村山市立中央図書館・東村山うちでのこづち〉で、町田からは中央図書館の北村さんがパネラーに。片岡さんが参加して報告を書く。皆さんのご参加を！

○館長より・・・図書館協議会に「町田図書館の運営理念」を諮問、今回は図書館としてのあり方について答申してもらう予定。（p6参照）

・各センター（小山 忠生 南町田）で予約図書を受け取れるようにしていきたい。1/18～3 月まで返却のみ、小山・忠生市民センターで実施（本庁メール便で対応）→1/11 広報掲載。物流面が現状のままでは無理なため、配送の委託化を検討。市職労・嘱託組合と協議中。

○映画「風のかたち」（文化庁映画賞受賞）上映会についての提案・・・監督は町田在住の伊勢真一氏。小児癌の子どもたちのことを広く知ってもらうことで、病気に対する誤解を解き差別をなくしていく手助けにもなる。図書館主催の上映には制約があることから、すすめる会と共催で行うことに。

○講座「和光大学図書館を使ってみよう」石井さん体験レポート（p5）

○12/20 藤沢図書館見学会をする。（p2報告）

○公民館に学習支援センターの機能をもたせるという動きあり。公民館はなくならないが、市庁舎建て替えで森野分庁舎がなくなると市民大学の場所がなくなる。生涯学習機能が公民館と市民大学に分かれているのを、整理する方向にある。

○2月に市長選があるので、候補者に公開質問状を出し、会としての方向性考える。

○ナクバ パレスチナ難民の DVD を個人（片岡さん）で購入しており、図書館での公開上映を希望しているが金銭的な面で中々実現できない。会員に向けてﾃﾚﾋﾞで観る機会を持ってはどうか？

○嘱託職員組合定期大会に出席してきた。図書館職員が本気でその気になれば指定管理は免れると思う/全体をまとめることの難しさを実感した大会だった。市職労より小さいけれど。各個人の要求をまとめる困難さをあらためて感じた/職員一人減って嘱託が 3 人入るので人数が増え、抱える問題も増大。来春には、正職より多くなる見込み。

○12 年間市職労にいて管理職試験が受かり役員解任となった。組合での今後の立場はわからない。（Y）

ドキュメンタリー映画 上映会
「風のかたち―小児癌と仲間たちの 10 年―」
3月14（日）14:00～（105 分）上映/16:00～伊勢監督と元患者さんのﾄｰｸｼｮｰ
中央図書館ホール
共催：町田市立図書館 参加費 800 円
：町田の図書館活動をすすめる会

あとがき 新しい年を迎えた。政権交代をして期待を抱く国民にとって、互いに相手をやっつけるのが目的のような国会論争にはうんざりする。この無駄な時間にも多大な税金が使われているのだ。もっと国民のための政治討論をやってくれよ、とついﾃﾚﾋﾞに向かって叫んでいる私がいる。2 月には町田市長・市議選がある。主権在民の旗を掲げて波穏やかな船出をして欲しいものだ。（M^4）